

フランクリン自伝

The Autobiography of Benjamin Franklin (1818年; 完全版 1868年)

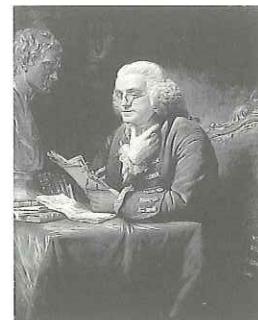
ベンジャミン・フランクリン Benjamin Franklin
(1706~90年、アメリカの政治家、文筆家、科学者)
[邦訳] 渡邊利雄訳、中央公論新社、中公クラシックス

植民地としてイギリス統治下にあったアメリカ・ボストンに、17人の子どもの15番目として、フランクリンは生まれた。学校教育を受ける経済的余裕はなく、10歳から家業のろうそく製造を手伝うようになった。12歳で、ボストンで印刷業を営む兄のもとに年季奉公に出され、印刷技術を身につけるかたわら、読書と文章修業に励んだ。早熟な文才を見せ始めるが、兄と衝突し、また当時のボストンのキリスト教会から異端的とみなされる発言をしていたことなどから、着の身着のまま故郷を飛び出し、フィラデルフィアに移り住む。さっそく印刷工として仕事につくと、持ち前の能力を發揮し仕事で成果をあげ、有力者の知遇を得る。

2年ロンドンすごした後、フィラデルフィアに戻り、いよいよ自分の印刷と新聞発行業を開業した。『貧しいリチャードの暦』を発行すると、これが人口2万のフィラデルフィアで毎年1万部近く売れるベストセラーとなった。約25年にわたり発行されたこの暦の呼び物は、余白に印刷された勤勉と節約を勧める

格言であった。新聞やこのような暦の発行は、合理的精神と植民地市民の啓蒙を重要視する姿勢の表れである。卓越した行動力を發揮して学校や図書館の整備、道路の舗装と照明、消防隊の設立、病院建設などの先頭に立ったフランクリンだが、社会的な活動だけではなく、自らの教養と人間性を高める努力も惜しまず、そのための工夫を凝らした。

科学者として的一面もあり、熱伝導について研究した成果を生かして「フランクリン・ストーブ」を考案、また稻妻と電気の同一性を証明した功績によりイギリス王立協会会員に推挙された。顕著な活躍が認められて、ペンシルヴァニア植民地の代表に選ばれ、さらには植民地全体の代表として課税をめぐるイギリス政府との交渉にあたった。成功を収めたフランクリンは、次の世代に自らの経験を役立ててもらおうと、自伝の執筆にとりかかったのであった。



ベンジャミン・フランクリンの肖像画